

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団体用 )

## I 基本事項

整理番号 1093

事業名	小中学校校長会負担金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	学校教育課		款	教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3018			項	小学校費・2項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	学校管理費・1目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_			
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】			
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する			

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)				
		南あわじ市小学校校長会並びに南あわじ市中学校校長会			構成人数(人)	
		22				
	実施内容	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)				
		南あわじ市小学校校長会並びに南あわじ市中学校校長会事業への設置者として経費の負担を行い、以て本市学校教育の向上と発展を図る。				
		(主な事業、活動内容等)				
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)				
		市立16小学校長並びに市立6中学校長が組織する会				
		事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ( ) <input type="checkbox"/> 旧町単位 ( ) <input type="checkbox"/> 旧村単位 ( )	
	補助金算出根拠	全国、近畿、兵庫県及び全淡の各校長会負担金については各校長会よりの負担金措置要求のあった学校割り単価により、また、市校長会については、校長会実施事業計画による要求により算定。				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~	平成	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧町時においても全国、近畿、兵庫県、全淡、三原郡校長会費の負担を行ってきており、また、旧4町毎の小中学校校長会に対して実施事業計画に基づき負担してきていた。					

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	1,531	1,496	1,390	1,239
	小学校校長会負担金	1,031	996	909	816
	中学校校長会負担金	500	500	481	423
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	1,531	1,496	1,390	1,239
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	1,531	1,496	1,390	1,239
	「目的」対象一人当り経費 (千円)	69.6	68.0	63.2	56.3
受益者人数( 22 )1人当り経費(千円)	69.6	68.0	63.2	56.3	
経費に関する 補足説明					

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 小学校長会負担金の約58%、中学校長会負担金の約75%が全国、近畿、兵庫県、全淡組織の校長会への負担金に相当し、その他の金額が南あわじ市校長会の各種事業経費として運用されている。 また、市校長会事業としては市教委や市内他校との連絡調整等を行うことを目的とした定例会議の開催、年2回程度の市内教職員を対象とした研修講演会の開催並びに学期に1回開催の教育研修会の運営等々に運用されている。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 全国学校長会等の下部組織として、また、文科省、県教委そして市教委と学校現場との連絡調整を行う機関として必要な組織である。	自己評価 (5点評価)
		3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 全国学校長会等の下部組織として、また、文科省、県教委そして市教委と学校現場との連絡調整を行う機関として必要な組織である南あわじ市小中学校長会の運営負担金であり、学校設置者として妥当なものであると考える。	
	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <p>費用対効果      必要性</p> </div>	

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減
	文科省、県教委そして市教委と学校現場との連絡調整を行う機関として必要な組織であるので、今後とも経費節減の上、継続してこれまで同様の活動を行ってほしい。	同左
(現状維持以外の改善方法)	淡路地域学校長会に係る経費について20%の予算減額とする。	同左
改善によって期待される効果	活動は継続しつつ予算節減となる。	同左
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 全校学校長会への負担金等の支出財源がなくなり、同上部組織から脱会せざるを得なくなると思われるが、市立学校として脱会が適当であるとは考え難い。	